

平成21年台風第9号災害による

自治会長聴き取り調査

平成22年1月
宍粟市

台風第9号災害被害取り調査項目

1. 8月9日～10日の災害発生当日について、何時頃どんな状態だったでしょうか。また、自治会での河川等の監視体制や避難誘導等についてどのように対応されましたか。

	気象情報及び市の対応	自治会での対応			
		一宮町千町	一宮町草木	一宮町上岸田	一宮町三方町
14:00	大雨洪水警報 連絡員待機(14:15)				
15:00					
16:00					
17:00					
18:00					
19:00					
20:00	土砂災害警戒情報(20:10)				
21:00			21:00 降雨の状況はそれほど降って いなかった。一度停電になった がすぐに回復した。		
	千種3号配備(21:30) 一宮・波賀市民局1号配備 (21:30)				
22:00	災害河原本部設置 1号配備(22:00)		22:15 再度停電した。外に出て川 の水位を確認したが普段の倍ほど もない状況だった。 22:30 外に出て確認したが傘をさ せる程度の雨だった。この時も停 電していた。再度家に入って様子 として「ご〜」という音がして きた。	22:30 消防団部長が自治会長宅 に来て被害状況連絡を入れる。 22:15頃 倉庫から俵のり漬からあふ れ出ており、公民館へ行き、役員と連絡をとった。 その時点で、詰所には消防団幹部が数名待 機していた。	22:00前 雨足が強くなったので、消防団長 と連絡をとり自校の向ったところ、旧道の溝 が少しあふれている程度であった。(患部 が有る)
23:00	一宮・波賀市民局3号配備 (23:20)	23:00 この頃からどしゃ降りになっ てきた。千町川の水位が水管下 30cmになっていた。 23:30 千町自治消防隊の出動を 命令した。	23:00 再度外に出て川の確認をし ていたら「ご〜」というものすごい音 がして見る間に溝にまで水が溢れ てきた。しかし、この頃も傘をさ せる状態であって水だけが溢って きた。	23:00前には電話は普通であったと 思う。役員、団員で自治会内の危険な 箇所を点検したところ、御形神社への 溝が洪水でつまり、多量の水が自治 会内に流入しており、避難を呼びかけ る。この段階では数軒の家が一つ の家に集まっていた	
0:00		0:00 電気、電話が不通となった。 自治会内の上側と下側で山崩れ があり完全に孤立した。	0:00 道は水が必ず下ぐらまで来て いた。これほどの水は今まで出 たことはなく一気に増えたので 草木ダムが決壊したと思った。	自治会内の道路3ヶ所が寸断され た。道路が川になって横断できな い状態になった。但し、停電にはな らなかった。携帯電話はAUのみ 使用できた。	12:00頃には前川津が氾濫していたと 思う。避難所はセンター・三方・北中・三 方小があるが、センター・三方・北中は 洪水の恐れがあり、三方小は真山が 危険との判断でまぼろしの溝(温泉地 段)を開放してもらった。(停電していた ため、自家用車のライトで明かりをと った)公民館は約80人、まぼろしの溝は 100人が避難。
	一宮町御形以北避難勧告 発令(0:45)	道路に土塵100袋を設置			
1:00	災害河原本部設置 2号配備(1:10) 一宮町全域避難勧告発令 (1:15) 災害河原本部設置 3号配備(1:45)		1:45 水かさが増ってきた。道には 水が無くなっていった。		
2:00	山崎町神野・河東地区避難 勧告発令(2:00)		公民館に充電機を持ってきて電気 をつけた。	2:00～3:00 自治会内の安否確認 を行った。 2:00 前は少なくなっていた。	避難完了し、役員の出さしたものが飲出 し(おにぎり)を交換した。(時間は定か ではないが、2:30～3:00ごろにおにぎり が配給された)
3:00		3:30 自治消防隊の監視体制を解 き解散する。	3:30 自治会員と自治会内を巡回 し、ダムより上の対岸の2軒を確 認しに行ったが、無事であった が様子が怪しかった。		
4:00					
6:00				6:00 消防団、自治会の警戒体制 を解散した。消防団員には一度専 門に備って食料をとってから、10日 は一日出勤してもらおう依頼し た。	
7:00	一宮町全域/山崎町神野・ 河東地区避難勧告解除 (7:00)	7:30 千町自治会全戸に出動をお 願いし、全戸調査を行い安否と浸 水家屋等の確認をした。	7:00 連絡をとるため、千町から歩 いて百千家まで降りて百千家溝 の方に草木はえらいことになった と伝えたがこちらもどちらへも行け ないと書かれていた。	地元役所職員が来て夏草が ないか聞いてきた。	
8:00		8:00 婦人会に炊き出しの要請を する。電気、電話、水が使用で きない。			
9:00		連絡をとるため、千町から歩いて百千家 溝まで降りた。工事業者の方が電話機 帯電話を持ってもらったので借りて通 話をとった。			
10:00		10:00 全世帯員、千町町の公民 館に集合してもらおう伝えた。			
11:00					
12:00		12:00 炊き出しの昼食を下千町の 公民館でとった。また、売れない方 へ食料を配った。水については、 会長宅の井戸水が使用できた。			
13:00					
14:00					
15:00					
16:00					
	特記事項				

台風第9号災害様取り調査項目

1. 8月9日～10日の災害発生当日について、何時頃どんな状態だったでしょうか。また、自治会での河川等の監視体制や避難誘導等についてどのように対応されましたか。

気象情報及び市の対応	自治会での対応				
	一宮町福中	一宮町福知	一宮町生括	一宮町西深	一宮町深河谷
14:00 大雨洪水警報 連絡員待機(14:15)					
15:00					
16:00					
17:00					
18:00					
19:00					
20:00 土砂災害警戒情報(20:10)					
21:00	21:00 福中、福知:第7分団消防団出動、福中自治会長詰所待機	21:00 福中、福知:第7分団消防団出動、福中自治会長詰所待機		21:30 生括、西深、深河谷:第8分団消防団出動、福知副自治会長、教護社社長公民館待機	
千穂5号配備(21:30) 一宮・深谷市民局1号配備(21:30)		21:30 生括、西深、深河谷:第8分団消防団出動、福知副自治会長、教護社社長公民館待機 福知は公民館より河川に投光器をあて監視	21:30 生括、西深、深河谷:第8分団消防団出動、福知副自治会長、教護社社長公民館待機	22:00頃 横保川、谷川が増満になりつつあった。 22:30頃 村トラにて主要道巡回(その時点で一部通行困難な状態であった。)	21:30 生括、西深、深河谷:第8分団消防団出動、福知副自治会長、教護社社長公民館待機
22:00 災害対策本部設置 1号配備(22:00)				22:30 西深自治会避難命令を出した。 22:30 西深:隣保長へ道路状況等把握するよう指示(谷川は氾濫し一部通行不能、横保川護岸崩上法部まで水位が上昇)	
23:00	23:00 福中 詰所が冠水の恐れがあったため、自治会長事務所に移動。その後、公民館に移動(その後自治会全体が浸水)	23:00 福知 河川水位が公民館より高くなった。(副自治会長、教護社社長公民館、詰所待機)	23:00 生括 独居老人宅等消防による避難呼びかけ。全戸への避難指示はしなかった。	23:00 西深 オフトークにて避難指示。(横保川、谷川の状況把握)高齢者等については、隣保長、消防団員により誘導、救出する。	23:00 深河谷 1組、長戸組公民館へ避難(十数名)山内宅、西山宅土砂流入、長尾宅床上浸水
一宮・深谷市民局3号配備(23:20)			23:00頃 月谷川氾濫、下生括床上浸水	23:00 避難していない隣保長については、個別に電話し、安全確認をする。	23:30 深河谷 電線により1組避難命令(中津定下、杉の木により道路通行不能)
0:00	0:10 携帯電話不通	0:00 福知 公民館浸水(消防団、自治会役員、消防ポンプ車等福知ふれあいグラウンド休館所へ移動)消防による安否確認指示(消防無線により指示) 0:10 固定電話、携帯電話不通	0:10 固定電話、携帯電話不通	0:10 固定電話、携帯電話不通	0:00 深河谷 下3組避難命令(田路建築作業所へ避難)(福知長へ各戸確認指示) 0:10 携帯電話不通 0:30 深河谷 サルダニ、鉄山前避難所(市道深河谷町土砂流出のため通行不能、公民館緊急)
一宮町曲里以北避難勧告発令(0:45)					
1:00 災害対策本部設置 2号配備(1:10)		1:00頃 奥福知相隣保内の非住工場へ一時避難			1:30 深河谷 公民館上田畑流出(巡回2回)
一宮町全域避難勧告発令(1:15)					
災害対策本部設置 3号配備(1:45)					
2:00 山崎町神野・河東地区避難勧告発令(2:00)					2:00 深河谷 公民館以下浸水 2:05 深河谷 田路建築作業所へ応援要請(消防無線) 2:30 深河谷 土砂、濁流の中公民館から田路建築作業所へ移動(老人を背負って)
3:00					3:00 深河谷 移動完了 3:40 深河谷 避難解除(家屋被害者は詰所へ)
4:00		4:00 福知 全員安否確認			
6:00					
7:00 一宮町全域/山崎町神野・河東地区避難勧告解除(7:00)				7:00 復旧作業開始(作業が終了した隣保は被害のひどい隣保の応援へ)	
8:00			8:00 生括 隣保長の指示により各隣保復旧 作業開始		8:00 深河谷 復旧作業開始
9:00		9:00 孤立集落の人工湧き湯者を災害救助へりに搬送。孤立した世帯全員集合し、安否確認			
10:00		災害対策本部にアマチュア無線のアンテナを建てる。			
11:00					
12:00					
13:00					
14:00					
15:00					
16:00					
特記事項					

台風第9号災害聴き取り調査項目

1. 8月9日～10日の災害発生当日について、何時頃どんな状態だったでしょうか。また、自治会での河川等の監視体制や避難誘導等についてどのように対応されましたか。

気象情報及び市の対応	自治会での対応				
	波賀町小野	波賀町谷	一宮町杉田	一宮町曲里	一宮町間賀
14:00 大雨洪水警報 連絡員待機(14:15)					
15:00					
16:00					
17:00					
18:00					
19:00					
20:00 土砂災害警戒情報(20:10)	20:00～21:00 農会の会舎を公民館で していた。				
21:00	21:00 農会の会舎が終わり自宅に 帰ってきたが、この頃から雨がかなり 降ってきた。				21:00 間賀橋付近で河川水位の確認 (以後1時間ごとに確認)
22:00 千種3号配電(21:30) 一宮・波賀市民局1号配電 (21:30) 災害対策本部設置 1号配電(22:00)		22:00 消防団が巡回し回ってきたの でこの段階で雨が次山降っている状 況が多かった。外に出てみると川の音 もゴロゴロと聞こえてきた。		22:30 二相森山の崩壊手前、崩壊箇 周辺浸水。 22:30 消防団巡回 詰所待機(巡回) 引原川、横沢川の水位上昇の情報を	22:00 西側の河原まで増水
23:00 一宮・波賀市民局3号配電 (22:20)	23:00 消防団員から下小野の方が2 人公民館に避難してきたと連絡が 入り、公民館に向かった。また、中小 野で地下浸水の音がしたので消防団 と協力して土嚢を積んだ。	23:00 消防団員から公民館(一次避 難所)に避難されてきた方があると 連絡が入ったので公民館に向かい、 同様のそばの大樽を見ると浸かりそう になっていた。 公民館には下谷の方が避難されてお り、北側の消防員については電話で安否 を確認した。消防は途中遅れが心配 なので消防団員には急ぎでこの方 と伝えた。この頃から停電になった。	23:00 消防団より河川水位上昇との 情報提供 自治会5段に集合通知 23:15 消防団員宅床上浸水被害 23:30 消防団と連絡(河川の水位) に避難指示 23:30 民生児童委員と協力員により 要援護者等の安否確認を実施	11:00過ぎにページング放送し自主避 難を呼びかけた。「伊和高校⇒中安橋 公民館」と「市民局⇒センターいもの みや」へ避難した。避難所が浸水被害 を蒙り、次の公民館へ避難した。浸 水被害が、曲里後 ⇒ 伊和高校 ⇒ と広がったため、途中に取り残されず 高所へ避難できた。(先に伊和高校側 が浸水していれば、被害が拡大してい たかもしれない。)	23:00 西側の土手上部まで増水 0:00 間賀橋の西側復旧を認める。河 川に近い家賃に声かけで避難指示。 上流地域で浸水被害始まる。(自主避 難)。ページングにより情報報告、避難 勧告 0:30 役員集會、災害本部設置準備
0:00					0:40 自治会長自宅 浸水被害(床上 1m)
1:00 災害対策本部設置 2号配電(1:10) 一宮町全域避難勧告発令 (1:15) 災害対策本部設置 3号配電(1:45)			1:00 自治会内住民の避難・無事確認		1:30 固定電話が不通となる
2:00 山崎町神野・河原地区避難勧告発令(2:00)					
3:00					
4:00				4:00 自治会内住民の避難・無事確認	
6:00					6:00 自治会内住民の避難・無事確認
7:00 一宮町全域/山崎町神野・河原 地区避難勧告解除(7:00)					7:10 「避難解除」により帰宅
8:00	8:00 13人の自治会役員(自主防災 組織員)に集合を呼び、被害調査を 行った。				
9:00	下小野の被災者宅へ下小野保全員 と自治会ボランティアにより土砂等の 撤去作業を行った。消防団災害部が 土嚢積みのお役にしてくれた。				
10:00					
11:00					
12:00			朝食:自主防災組織による炊き出しを 開始	昼食:自主防災組織による炊き出しを 開始	
13:00					
14:00					
15:00					
16:00					
特記事項			○ 防災訓練を活かすことができた。 (炊き出し、要援護者世帯見回りなど)		○ 自治会長宅が浸水被害を受け、 固定電話、FAXが不通となったので、 連絡手段を再検討(被災後のFAX通 知が確かす) ○ 自主防災組織の役割を関係者で 実行している。利点は、引継ぎが容 易で、役割が定着しやすい。

台風第9号災害隠き取り調査項目

1. 8月9日～10日の災害発生当日について、何種類どんな状態だったでしょうか。また、自治会での河川等の監視体制や避難誘導等についてどのように対応されましたか。

気象情報及び市の対応	自治会での対応			
	山崎町杉瀬	山崎町田井	山崎町岸田	山崎町三津
大雨洪水警報 連絡員待機(14:15)				
15:00				
16:00				
17:00				
18:00				
19:00				
20:00 土砂災害警戒情報(20:10)				
21:00		8:30 河川の状況監視(この時点で、災害は想定していなかった。)		
千種2号配電(21:30) 一言・波賀市民局1号配電(21:30)				
22:00 災害対策本部設置 1号配電(22:00)				
23:00				
一言・波賀市民局3号配電(23:20)				
0:00	午前0時半頃、出動部分員に出ない状況判明し、避難指示をした。この頃、河川水位は30cm位は余裕があった。その30分位には冠水した。	0:30 自治会内避難放送(7組はコメセンへ、8組は神野小へ) 8組の世帯で浸水により避難出来ないうる連絡あり。消防本部救助隊の要請。また、自治会放送で、8組については、自宅2階避難を呼びかけた。	自治会昇守(湯原氏)より、河原部への水門を締めてもらいたいと依頼あり(小林宅浸水の恐れありのため)。失禮自治会長にTEL、水門を締めてもらうよう依頼。	0:00頃に山崎東中体育館へ避難指示
一言町全域避難勧告発令(0:45)			自治会長、副会長現場へ直行する。すでに県道(廣田路地行)浸水。自治会役員公民館での待機を指示。	
1:00 災害対策本部設置 2号配電(1:10)	午前1時過ぎには全員避難完了。30分おきくらいに周辺を巡回した。		自治会放送により避難準備を指示(6組7組10組12組浸水用浸水の確保対象)。援助を要請。 自治会放送により公民館への避難指示。	
一言町全域避難勧告発令(1:15)		1:30 神野小体育館の鍵がなかった。		
災害対策本部設置 3号配電(1:45)	自治会役員5役の婦人方、婦人会により炊き出しおにぎりを作ってもらった。			1:30 避難所の鍵が開いていなかった。本館スタンド前の道路冠水し通行出来ないうる状態
2:00 山崎町神野・河東地区避難勧告発令(2:00)		2:15 消防本部救助隊が到着し、8組の浸水世帯、救助		
3:00				
4:00	4時頃、自治会役員解散。	4:00 全自治会役員招集をかける		4:00 避難所閉鎖、自治会内巡回、浸水家屋で避難していない世帯を確認
6:00	被災状況から食事が必要と判明し、午前6時頃、炊き出しおにぎりを出して、避難民は帰宅。	6:30 自治会放送(8組浸水世帯の救助活動体制)		
7:00 一言町全域/山崎町神野・河東地区避難勧告解除(7:00)				6:00 食糧本量が来て、浸水家屋世帯の子どもを救出(2人) 7:50 役員会を開催し、被害状況の把握をする
8:00				
9:00				居住確認したため希望者は自宅へ帰ることを許可。
10:00				
11:00				
12:00				
13:00				自治会役員と出役可能な会員により、浸水等の破片付けを実施(重傷も出た)。
14:00				
15:00				
16:00				
待記事項	*自治会内災害マップを作成しているが、浸水のある方等の情報が(市に)教えてもらえないので、把握が困難であった。 *ポンプ7台による救助活動が早かったためであった。 *一言町の方にはもともと浸水が、良い対応してもらえなかった	*避難所への情報が何もなく、(避難民が不安) *被災後の復興について、山崎市長局があれほどと熱心になって対応してもらえたのかと驚いた。(一言町の方はもともと浸水が、良い対応してもらえなかった)		*道路冠水により通行不能となったため、役員招集が出来なかった

台風第9号災害聴き取り調査項目

1. 8月9日～10日の災害発生当日について、何時頃どんな状況だったでしょうか。また、自治会での河川等の監視体制や避難誘導等についてどのように対応されましたか。

気象情報及び市の対応	山崎町塩田	千種町河内	千種町下河野
14:00 大雨洪水警報 連絡員待機(14:15)			
15:00			
16:00			
17:00			
18:00			
19:00			
20:00 土砂災害警戒情報(20:10)	自治会各役員と消防団に水害の警戒にあたるよう自治会放送で依頼		
21:00 千種3号配線(21:30) 一宮・波賀市民局1号配線(21:30)	21:10 河川の増水と谷川の土石流で危険な状態になったので住民に自治会放送で知らせる 21:19ころ、危険な13戸の家を公民館へ避難誘導する。菅野地区消防団が、土器用の砂を、菅野幼稚園からもってきて、土蓋をつくる。	21:00 「ウト谷」地区住民から消防分団長に「土のうを持ってきてくれ」との連絡が入り、消防団が出動した。 伊場(「ウト谷」)は水が溢れ、少し洪水状態。	21:00 予知を見ていたら、市風は消防の広報車が巡回していたので、公民館に行ったら、避難が状況していた。 停電が、避難前後で発生した。公民館に行ったら時点で、消防団は出動していた。 河川は、暴落した地域で水が堤防を越えていた。
22:00 災害対策本部設置 1号配線(22:00)	22:00 谷川の土石流により宅地2軒、地下浸水13軒、車庫3箇所、水が上がるため消防団が土器を積むが、間に合わず。菅野地区消防団に土器積みの応援を緊急連絡するが、連絡がとれない。(家には連絡できるが消防団前部と直接連絡がとれなかった)	21:30 地区外にいたので、自治会長はこの頃に帰宅した。波賀地(津波若下地区)は、河内地区内)は千種町まで来た。	
23:00 一宮・波賀市民局3号配線(23:20)		23:00 外で人が出て大変になっていた。道路に水と石が流れている状態だった。「ウト谷」では水が溢れ込んでいる状態だった。 23:00前後、監視員に連絡を取る間もなく、副自治会長が連絡断絶した。その状況を見て、避難を決定し、河内公民館を避難所として開設した。オフク放送で、住民に伝えた。	
0:00		一人暮らしの方の安否も確認した。	
1:00 災害対策本部設置 2号配線(1:10) 一宮町全域避難勧告発令(1:15) 災害対策本部設置 3号配線(1:45)		1:00頃 全地区長に被害等の確認をした。全地区長が消防団の所へ行って、重傷の活用などを相談した。 自治会員の協力により、消防団も加わって、重傷2台で土石の除去作業を行った。	
2:00 山崎町神野・河東地区避難勧告発令(2:00)			
3:00			3:00 県道の通行止め箇所の土砂撤去の情報が市民局から入ってきた。
4:00			
6:00			
7:00 一宮町全域/山崎町神野・河東地区避難勧告解除(7:00)			
8:00			
9:00		時間未定:自治会役員会を開催。	
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00			
15:00			
16:00			
特記事項			

台風第9号災害被害取り調査項目

2. 地区住民への呼びかけはどうされましたか。

一宮町千町	◎ 外に出るのは危険と判断しあえて住民への呼びかけはしなかった。 ◎ 人的被害がない状況は巡回してわかっていった。 ◎ 全員に10日朝10時に下千町の公民館に集まってもらうよう呼びかけた
一宮町草木	◎ 草木としては停電と電話が通じないので連絡の取る方法がなかった。
一宮町上岸田	◎ 12時すぎに役員に集合。 ◎ 2時～3時頃に掛けて役員が各隣保ごとに安否確認を行った。 ◎ 自治会内放送は使用していない。
一宮町三方町	役員消防団で協力し実施。
一宮町福中	自治会内が3つに分断(横住川、神社横谷川)されたため、十分にできなかった。5件は危険な状況であったのでいけなかった。オフトークにより各戸の判断で公民館へ避難するよう呼びかけた。
一宮町福知	ひとり暮らし等安否確認を消防に依頼。夜が明けるまで自治会役員や隣保長と連絡とれなかった。 4時頃隣保長が隣保内の状況報告(安否確認、被害状況等)
一宮町生栖	消防団により、一人暮らし等呼びかけを実施
一宮町西深	オフトークによる避難指示。隣保長による高齢者等の誘導救出。 避難確認は自主防災組織が作成している世帯別構成人員表により実施。最終的に1件の確認ができず(翌日に連絡あり)
一宮町深河谷	電話が通じる間は、電話により隣保長へ確認指示。戸別に徒歩で隣保長が呼びかける。消防自動車による巡回放送。
一宮町曲里	ページング放送を緊急放送として切替えができるか。(ボリューム等強制で放送できる方式)アンケートで避難者の約9割が、ページング放送、声かけで避難している。
一宮町間賀	放送設備では聞こえない状況。(深夜であり、建具など環境もある) *保健センターやすらぎへは避難しなかった(鍵が不明、距離がある)。結果として正解(被害者が出た可能性がある)と思っている。
一宮町杉田	清藤氏宅の浸水被害をきっかけに、危険地区の世帯へ声かけをした。自治会に放送設備を有しているが、放送はできず。声かけて対応。
波賀町小野	◎ 自治会としては特に呼びかけなかった。(不必要に心配をあおらないように) ◎ 避難する場合は隣保単位でできるだけ夜間は動かしたくない。
波賀町谷	特に住民への呼びかけはしなかった。
山崎町杉ヶ瀬	12時半頃、自治会内避難放送をし、1時過ぎには全員避難完了した。早く非難してもらい、けが人も無く良かった。足の不自由な方は、車で迎えに行った。夜中ということもあり、いくら電話してもなかなか連絡がとれない家もあった。全体を見ると(自治会内でも被害のない地域等)、朝まで放送等気がかす寝ている世帯が結構あった。
山崎町田井	12時半頃、自治会内避難放送をし、1組は18世帯の内、17世帯が避難。8組は家から外に出られない状況であったため、家の2階に避難するよう周知、放送した。隣保長に逐次連絡を入れてもらった。3時か4時くらいに水が引き、徒歩で小学校体育館に避難された。*家から出られなかったことが、幸いであったかも知れない。 6時30分頃、自治会放送を流し、8組の被災世帯の救援依頼をした。【30名集まっていた。】
山崎町岸田	◎ 有線放送により 周知1回目は避難準備 2回目は避難指示
山崎町三津	12時過、自治会内避難放送をした。山崎東中に避難した人数は、20～30人。露天駐車場に避難した人数も、20～30人4時頃、避難解除し、自治会内を巡回していると、浸水している世帯が避難されていないことが判り、救助隊を依頼した家の人とつづった。(避難しないとされた)6時過ぎ、警察が本署から来て、子どもだけ(2人)は救出された。
山崎町田	◎ 有線放送により 周知1回目は避難準備 2回目は避難指示
千種町河内	オフトーク放送(ページング)で周知した。「ウト谷」の被害が大きく、2戸ほどが浸水することが心配で、自治会全域のことまでは、思いが至らなかった。
千種町下河野	* 公民館に着いて、組長が8名いるが、来ていない組長もいた。* 各組長に、消防団員の携帯を通じて、近所への声掛けをお願いした。 * オフトーク(ページング)は使用していない。 * 組長から報告があり、可能な範囲で安否確認ができた。内容: 早めに親戚の家に避難。センターちくさに3人避難。(自主的に)隣家や小屋に避難

3. 消防団との連携はどうでしたか。

一宮町千町	◎ 自治会の自衛消防隊として自治会長主導で活動した。
一宮町草木	◎ 自衛消防隊としても4人しかいない。状況もひどく1日～2日間手のつけようがなかった。
一宮町上岸田	◎ 10日は自治会より土砂の撤去などの応急処置をしてもらうよう消防団に出動要請した。 ◎ 消防団への命令は自治会長からだせるのか。今回は支団からの指示により自治会内でそれぞれが活動するよう指示があった。
一宮町三方町	消防団は早い段階から業合し、たいへん精神的に活動いただいた。役員との連携もとれていた。土のうはたいへん有効であった。
一宮町福中	非常によく動いてくれたが、事後処理については、団員が4名なので対応しきれない。 自治会員の中で消防団員に対して危険な箇所の見回り(ガス漏れ箇所、氾濫箇所)を指示することがあった。状況、団員の体調等により判断する必要がある。
一宮町福知	安否確認や道路冠水時に迅速に対応してくれた。
一宮町生栖	戸別確認の実施。災害後1週間は自治会役員と消防部長の朝の打つあわせを実施した。
一宮町西深	地元消防団員はよく動いてくれた。ただし、本部の対応が非常に悪い。(防災無線で指示する内容が悪い。)若い消防団員だけを現場に出動させるのは危険である。 各自治会で状況が異なっている。現場の状況を把握している自治会長等の指示により消防団は活動するべきである。
一宮町深河谷	良好。小型部については、自治会負担をかなりしている。災害時には自治会配下で動くようにするべきである。 本部からの指示が現場消防団の動きを悪くしている。
一宮町曲里	消防団員が河川氾濫で右岸、左岸に分かれてしまった。団員活動が見えず連絡調整も十分できなかった。(97%くらい連絡不備)警戒体制であったにも関わらず、連絡やりとりが不十分であった。自己反省であるが、消防団分団長と携帯電話番号交換をしていなかった。消防団への直接命令はできるか?⇒消防団は団長命令が必要。できない。団員の自宅も被災し、自宅の安否などもあり充分な団体活動ができない。消防団も経験が不足してきているのではないかと。商工会青年部のほうが遅く感じた。
一宮町間賀	息子さんが団員であったため、「比較的連絡できたほうか」と判断。地震もそうだが大被害があれば、団員と言えば自宅を守ることを優先することは止むを得ない。市と消防団の連絡は?⇒災害対策本部に支団長が入るのできている。防災訓練時の反省で「連絡網の整備」を尋ねたが、「行政無線がある」との回答があったが、実際今回は機能したかどうか疑問である。
一宮町杉田	警戒を続けており、危険箇所、地区の状況を報告(情報提供)をもらった。

波賀町小野	◎消防団より連絡があり、初めて被害が出ていることがわかった。◎避難所の公民館を基地として待機し、消防団と協力しながら警戒体制や災害現場の復旧等にあたった。
波賀町谷	◎消防団より谷公民館に避難されてきたと連絡があり、公民館へ向かった。その後は消防団と警戒をおこなった。◎消防団と相談しながら災害現場に出動してもらった。
山崎町杉ヶ瀬	消防団分団長との連絡で、初期対応(避難放送)出来て良かった。消防団が中心となり、良く対応していただいた。
山崎町田井	消防団から逐次状況等の報告をもらった。
山崎町岸田	◎消防団は別途出動 ◎要援護者の輸送を共同で実施
山崎町三津	自治会内避難放送の前に消防団と連絡を取り合い、判断をした。それ以外は連絡の取りようがなかった。(水がひいてから)
山崎塩田	①菅野地区消防団との連絡がなかなかとれず困ったので、携帯電話の必要性があると考え、後に(10月ごろ)菅野地区消防団と自治会長の第1回目の会合を持った。 ②毎年5月ごろ、消防団各部長と自治会長の会議を開催することを決定。
千種町河内	*十分に取れていた。*自治会(自主防災組織)より、消防団が先んじて活動を行った。 *自治会は消防団から指示をもらうような状況だった。*初め頃は、道路の通行止めにより帰宅できない消防団員があり、団員4人ほどで活動した。
千種町下河野	全員ではなかったが、消防団員は詰めていた。来られない消防団員には「無理して来ないように」指示し、近所の巡回をお願いした。 消防団と自治会の連携について、これまで話し合ったことはない。連携システムとして確立されていなかったが、消防団がいてくれたので良かった。 集落から市民局への道は通行止め、南部は道の駅で通行止めの状況を消防団は自治会に伝えてくれた。この情報で集落は孤立したことを確認した。

4. 自主防衛組織の役割や機能は果たせましたか。

一宮町千町	◎自主防災組織の役割は機能していない。人数が少ないため、みんなで動かないと何もできない。 ◎炊き出し 10日の朝8時に婦人会に炊き出しを依頼した。昼食を自治会内全員、公民館でとるように決めた。来れない方へは食事を届けることにした。	
一宮町草木	本部: 今回の水害は余裕すら与えなかった。資材等で不足したのなど: 食料品については個人の備蓄があった。	
一宮町上岸田	本部: 4月に自主防災組織表をつくっているが、火災を中心に組織している。班長の家が被害を受けていたため出動できなかった。 炊き出し班は婦人会を中心に機能した。各避難所にまったく備蓄品がなかった。 繁盛地区に1ヶ所備蓄基地的な所があってもいいのではないか。	
一宮町三方町	消防団は早い段階から集合し、たいへん精神的に活動いただいた。役員との連携もとれていた。土のうはたいへん有効であった。	
一宮町福中	自主防災組織ではなく、自治会員の中で連携しながら呼びかけを実施した。 連絡体制、指示命令系統の意味からは必要であるが、現場の状況に応じた対応、体制が必要である。 自治会内が寸断されたため、各隣保での活動となった。	避難誘導班: 自治会長、隣保長、消防団等による誘導
一宮町福知	本部の移動があった。	給食・給水班: 婦人会による炊き出しを実施
一宮町生栖	自主防災組織=自治会組織であり隣保長、消防団がよく活動できた。	
一宮町西深	班別、役割の認識不足から十分に機能したとは言いがたい。自主防災組織=自治会組織であり隣保長、消防団がよく活動できた。	資材等で不足したのなど: 臨時の避難所へ毛布配布を依頼したが断られた
一宮町深河谷	自主防災組織=自治会組織であり隣保長、消防団がよく活動できた。	
一宮町曲里	炊き出しはできた。(10日昼ごろから)曲里地域では電気、水道が使えたので比較的早く救済活動対応ができた。自主防災組織は、機能させることが難しい状況。組織図のみとなっている。役員交替、引続きなど不十分のままである。人材が出来上がらない。など	
一宮町間賀	炊き出しができた。(朝、夕は市からパン、弁当の配給。昼食を長期にわたり炊き出しをした。)避難は2軒の被害が大きく、炊き出し支援が長くなった。食糧には不自由しなかった。地震に備えた対応、訓練をやってきたが、今回の災害は少し色合いが違った。マニュアルの見直しが必要ではないか。組織での役割・班長を隣保ごとで決めているため、引き継ぎもその隣保が受け持つ業務として現在に至っている。防災訓練で「バケツリレー」を行ったが簡単なようでも経験になる。水は運んでいるが、空バケツが水源に返ってこない。経験が大切。	
一宮町杉田	婦人部がいち早く、炊き出しをしてくれた。(10日朝より)。一昨年の防災訓練により機転が利いたと思う。その時の乾パン等の保存食も活用した。自治会の運動会、交流事業において、消火訓練を行っている。(年3回程)	
波賀町小野	◎土嚢袋は消防団が持っているものを使用し、土は広場(砂場)の土を使用した。 給食・給水班:炊き出しは行わなかった	
波賀町谷	◎土嚢袋は消防団が持っているものを使用し、土は広場(砂場)の土を使用した。 給食・給水班:炊き出しは行わなかった。 資材等で不足したのなど:土嚢袋は自治会内の業者の方が持っていたものを使用した。	
山崎町杉ヶ瀬	自主防災組織はあるが、いざとなるとその役割、機能を果たすことは出来なかった。実際の災害では機能しなかった。実際の災害時には消防団の判断に委ねざるを得ないと思った。 ボランティアの対応が早く、良かった。(感謝の意も聞かれたとのこと)	
山崎町田井	自主防災組織図については、毎年度当初にはコミセンの入口に貼り出して周知しているが、災害時は役割どおり機能しなかった。1組、8組だけだったので、隣保単位で対応してもらいしかなかった。炊き出しについては、婦人会として役割を認識していただいていた。10日の救援活動時にもお茶とかも出してもらった。 4時過ぎには、全役員(隣保長)の招集をかけた。11月の防災訓練の参加率は高かった。 出来るだけその時々の状況をメモするよう心掛けたが、バタバタしていたので出来なかった。	
山崎町岸田	本部:公民館に本部を設置、自治会役員(防災組織各班員) 待機情報班:2名体制で自治会内の状況を確認、消防団も別途見回り実施救出・救護班:安川堅治氏をワゴン車にて避難させる(消防と協力して実施) 給食・給水班:婦人会による炊き出し等は行わなかった	
山崎町三津	7時頃、役員会を開催し、隣保内の被害状況報告を受け、市へ報告した。夜中に役員招集出来なかった。(冠水による通行不能により)動けない状態だったため、自主防災組織としては機能していない。11月8日に防災訓練を実施した。 特に、自主防災組織として動かなくても、それぞれの立場でその役割を認識していただいているので避難対応等は出来る。	
山崎塩田	①自主防災組織は毎月、行事計画の中で訓練している成果が出たと思う。(自治会で家族状況、高齢者のいる世帯などを把握している) ②資材として、土のう用の砂が無かった。(以後、少しではあるが、砂を備蓄している) ③民家13戸に水が流入したが、土のうが間に合わなかった。 ④民家等への流入土砂などは、8月10日~11日、自治会全戸で撤去作業をする。婦人会は炊き出しを行った。 ⑤農業関係の溝の土砂の撤去11箇所、自治会役員で実施 ⑥田畑の流入土砂の撤去13箇所、自治会役員で実施 ⑦橋に流木2本引っかかっていたが、2次災害を招く可能性があるため、市役所に撤去を要請したが、忙しか対応してもらえなかったため、自治会役員で撤去する。	
千種町河内	*果たせなかった。*自治会対策本部として、隣保長が消防詰所に寄って、重機の活用などを相談した。 *被害の時間が長くなったら、しっかりした体制を整えるつもりであった。*後1時間も雨が続き、どうなっていたか分からない。*立木が立ったまま川を流れる状況だった。	
千種町下河野	自治会内にいる人、親類にいる人、センターちくきに避難している人など、所在の確認はできた。 体制はあるが、日頃から訓練をしていないこともあり、役割は分かるものの、実際の活動はできなかった。 自主防災組織としての活動はできなかった。自分(自治会長)が何をしても良いのか分からない状態の中で、集まること、打ち合わせすることもできなかった。今後の課題である。 それぞれが個々に活動していた状況だった。停電後、発電機を活用して公民館周辺は明るかった。	

5. 安否確認と要援護者への対応はどうでしたか。

一宮町千町	◎9日の夜中と10日の朝8時30分から安否確認と被害調査をおこなった。 ◎10日の8時に炊き出しを婦人会にお願いし、公民館にこれない要援護者に昼食の配布を行った。
一宮町草木	◎地元の水道が生きていたので水には不便しなかった。
一宮町上岸田	◎民生児童委員と自治会役員が独居老人の安否を確認した。◎遠方の方から家族の被害確認の電話が多かったと思うが、市役所で
一宮町三方町	安否確認は、隣保長がおこなった。個人情報であり困難かもしれないが、要援護者名簿は公表しておくべきと思った。
一宮町福中	電話の不通、増水により危険箇所がある中確認が遅れた。家の周りが水に囲まれ水量も多く家からでられない状態の家が5軒あり。
一宮町福知	電話不通により、各隣保内での確認となった。孤立した隣保については、隣保内で集合し、安否確認をした。(津羅・奥福知) 携帯電話が不通となったり、孤立した隣保があったため安否確認を把握するのに時間がかかった。(福知で4:00)
一宮町生栖	消防団、隣保長による呼びかけ。(隣保で対応)
一宮町西深	要援護者へは民生委員が主体的に対応。その他の住民は隣保長が対応
一宮町深河谷	消防団、隣保長により徒歩で確認
一宮町曲里	携帯により組長で避難状況を確認した。(10日4:00頃 確認済) 個々で声かけし避難したので、要援護者の避難、安否確認もできていた。400人余りを8組長で確認がとれた。要援護者名簿は、民生児童委員から提供あり。(少し前のものである)
一宮町閭賀	要援護者は、公民館へ一番に誘導した。その後、避難者が増えたため個人宅へ好意により誘導した。自治会外、市外など親戚宅へ避難した場合に情報が取れない場合、確認ができないことがある。要援護者名簿は、自治会長が調査し作成済。安否確認は、10日6:00頃 確認済。
一宮町杉田	民生児童委員が直ぐに要援護者の見回り等を申し出られ、民生児童協力員とともに安否確認に周知した。10日 1:00頃 安否確認済
波賀町小野	◎自治会内の調査で確認した。 ◎要援護者対策については、会長と民生委員が全自治会員名簿を持っている。災害時にはこれを使用する。◎要援護者対策については、会長と民生委員が全自治会員名簿を持っている。災害時にはこれを使用する。 ◎床下浸水は5戸であった。◎下小野で水路が多量の土砂で詰まった。 ◎農業用水取水口多量の土砂で詰まった。◎下小野で水路が多量の土砂で詰まった。 ◎引原川取水口破損。小野川取水口は自治会で対応。◎小野川口ログハウス前土砂崩落。◎県道上ノ波賀線ログハウス北側の道路陥没。
波賀町谷	◎鳥取に向かう家族2組が公民館に避難しにこられたため、一泊してもらった。◎要援護者への対応は特にしなかった。
山崎町杉ヶ瀬	災害マップを作成しているが、障害のある方の情報は(市に)教えてもらえないので、把握が困難であった。足の不自由な方(1名)は、車で迎えに行き、適切に対応出来た。
山崎町田井	民生委員との連携により、100%近く要援護者等の把握は出来ている。(名簿も作成し、毎年更新している。) 避難所で点呼を行い、避難している者、していない者を隣保長中心に行った。一人での行動はやめるよう周知した。
山崎町岸田	要援護者である安川堅治氏をワゴン車で輸送したが一面長靴以上水で海となっていたため消防団と役員で道路の中を確認しながらの避難となった
山崎町三津	要援護者は把握している。2人(ひとり暮らし老人等)隣保長が避難誘導してくれた。(隣保長自宅へ避難)
山崎塩田	①高齢者の家には自治会役員が訪問 ②浸水により危険な家族(13戸)避難誘導
千種町河内	* 安否確認と要援護者の確認は、自治会内の民生委員と一緒に自治会役員が3人一組で行った。 * 「一人暮らしマップ」を3年前に自治会が作成しており、これを利用して危険と思われる地区の当該者の確認を行った。避難の準備を行った。 * 当該世帯が5世帯あったが、5世帯とも避難した。* 避難の方法は、近所の方の運転(車)で送迎した。
千種町下河野	組長を通じて安否を確認した。一人暮らしの人も確認した。安否が確認できなかった人は無かった。自主的に避難した人もあったし、これまでの経験で各組ごとに安全な家に避難された。 組長が頑張ってくれた。要援護者の対応については、自治会としての対応というのではなく、気になっている家には安否確認を含めて避難誘導や助したところもある。 公民館(千種川に隣接)は危険なので、個人宅へ避難所を移した。自治会に発電機は1台だが、災害時には発電機は必需品である。

6. 市役所からの情報は役立ちましたか。

一宮町千町	孤立したため連絡はとれなかった。10日の朝、歩いて百千満家まで降り消防詰所でAU携帯を持っている団員がいたので貸してもらい支援を求めた。 草木と千町の崩れたところに工事関係の方が衛星電話を持っておられたので借りて連絡をとった。 大規模な崩れたところは11日の午後2時に四駆の軽トラックは通れるようになった。 12日の昼前に市民局から紙コップ、割り箸などと自衛隊よりレトルト食品などが届いた。12日の屋全員で食事をして解散したペットボトルの水が届いたのは15日だった。 12日の午後4時頃に電話が使えるようになった。自衛消防隊については、消防団の連絡が入ってきこないので情報がとれず不安などところがある。
一宮町草木	
一宮町上岸田	◎市役所職員が10日の朝来て、要望がないか聞いてくれた。 ◎消防団の無線が本部(市民局)と上手く繋がらなかった。近くの分団が次ぎの分団に伝える方法をとっていた。 ◎市役所からページング放送はあったのか。放送が聞こえなかった。(市役所からは放送したが、断線のため使えなかった。)
一宮町三方町	市からの情報は何もなかった。(iの町放送不通、電話不通)市と連絡とれなかった。
一宮町福中	まったく役にたたなかった。
一宮町福知	電話等の情報伝達方法がauのみであったためまったく情報がなかった。
一宮町生栖	福知:ゴミ袋の要請をしたが断られた。生栖:臨時避難所への毛布を要請したが断られた。
一宮町西深	情報の出し方について検討する必要がある。上流部、合流点等への雨量計の増設・・・上流部等の河川水位や雨量の状況を知らせる。
一宮町深河谷	
一宮町曲里	9日11:00ごろに自治会で避難指示しており、市の情報は得ていない。朝の道路不通情報から情報を聞く。
一宮町閭賀	10日0:00頃から避難をはじめており、市避難勧告は間に合わず。道路の不通情報については、消防団から得た。電話、FAXが不通となり、連絡が取れなかったため、早期に現地(現状)確認して情報提供手段を確保して欲しかった。消毒の方法、対応など情報が来なかった。(消毒の方法:急ぐ方は石灰等配布するので個人対応。時間に余裕があれば行政が順番に対応を進める。)
一宮町杉田	自治会の放送設備を利用し、情報提供した。

波賀町小野	◎情報がまったく無かった。(わからなかった)◎自治会内放送も行わなかった。
波賀町谷	◎情報がまったく無かった。(電話も無かった)◎市の職員とも合っていない。
山崎町杉ヶ瀬	災害最中は、何も連絡はなかった。朝方になり情報確認の電話があった。(市役所からの情報を特に必要だという印象は受けなかった。)
山崎町田井	自宅には、息子が留守をしており、その時自宅に連絡はあったらしいが、消防副団長から、神野・河東地区に避難勧告が出たことを聞いた。消防無線を上手く活用出来ないものか。避難所へ避難している者に対して、何の情報もない。情報が入れれば少しでも安心できると思う。
山崎町岸田	
山崎町三津	2時頃にあったが、その時避難所にいたため不在であった。
山崎塩田	①8月9日、市役所からの連絡はなかった。(外に出ているので、携帯には連絡はなかった) ②8月10日には連絡(被害状況の確認などの連絡であったと思う)があったが、役に立ったとは思わなかった。 ③被害調査にはお世話になり、感謝している。
千種町河内	*私(自治会長)は携帯電話を持っていないので、不便を感じた。*市民局等との連絡は、消防団を通じて行った。 *当自治会から市民局に至る経路(県道若狭下徳久線)の「いろは滝」付近での通行止めにより、市民局との連絡が疎遠となった。安否確認の依頼等はあったが、通行止めの状況は伝えてもらわなかった。急病者が出たらどうしようかと思った。 *総括すると「普通」であったとの回答になる。
千種町下河野	10日3:00頃県道の通行止め箇所の土砂撤去の情報は入ってきた。病氣の方が出たらどうしようかと思っていたので、安心だった。センターちくさへの避難情報に関する市広報車の周知は役立った。 地元や個人の判断が大切である。市が針歩が発令されるたびに連絡を取ることは難しいだろう。刻々と雨量の情報が分かれば良い。これくらいの雨量があれば避難するというような基準があれば、今後活かされるだろう。

7. 市役所のどんな部署から問い合わせがありましたか(何回も同じこと聞いてないか)。

一宮町千町	◎被害状況を何回も電話してきた。どこからかはわからないが。
一宮町草木	
一宮町上岸田	◎自治会長への連絡を携帯1本にしほってもらえないか。 ◎現在の繁盛地区の広域避難所は避難所に適しているのか。センター繁盛も浸水し、体育館はカギが無く入れなかった。 ◎学校の体育館より校舎の方が避難所に適しているのではないか。 ◎遠方の家族等の方からの安否確認の電話の対応を考えてもらいたい。
一宮町三方町	あのような状況時には、市は早急な被害状況報告を求めるが、自治会内でもっと早急に行わなければならないことがあり、検討願いたい。
一宮町福中	
一宮町福知	生栖:被害状況について2回市民局より連絡があった。 携帯電話不通により、問い合わせはなかった。
一宮町生栖	福知:透折治療が当日必要な患者がいたため、au、消防無線等により対応
一宮町西深	
一宮町深河谷	
一宮町曲里	特に重複したものは無し
一宮町岡賀	問い合わせは特になし。連絡手段が途絶えた。必要なことは直接、市民局へ行くなど対応した。被災ゴミの分別排出は極力協力依頼した。3種類くらいには分別できた。
一宮町杉田	重複問い合わせはない。被災による粗大ゴミの搬出、分別指示が困難であった。(量、家具などの区別ができていない)
波賀町小野	◎市民局から被害状況等の連絡があった。
波賀町谷	◎市民局から被害状況等の連絡があった。
山崎町杉ヶ瀬	被害状況について、同じことを聞かれた。
山崎町田井	自宅に2回、勧告の連絡が入っていた。連絡網の整備をしないと(避難して自宅に居ないのに、自宅に電話がかかっていた。) 市の複数の部署から被災状況報告の電話があった。→ 窓口を一本化してもらいたい。
山崎町岸田	市役所の職員が直接調査に来て対応中に電話での調査もあった(2重に)
山崎町三津	違うセクションから、いろんな要件の連絡があった。同じ報告を求められた。→ 窓口を一本化してもらいたい。 10日7時頃、役員会開催以降、自宅に帰る度に市から電話があった。
山崎塩田	①8月10日、11日ごろより、商工、農林、建設による被害調査で、河川の災害について、農林で対応するか建設で対応するか職員も迷う感があったように思う。
千種町河内	*市民局まちづくり推進課消防団担当とのやり取りが主である。 *被災翌日(10日)に、「土のうを積みに来てほしい」という指示が消防団にあった。地域も被災しており、通行止め等もあり、対応できる状況ではなかった。
千種町下河野	無かった。農地関係・保健関係・福祉関係のそれぞれから問い合わせがあったかも知れないが、「あった」とは聞いていない。

8. 今後、自治会の復興に向けてどのように取り組まれますか。

一宮町千町	
一宮町草木	◎河川敷の復旧工事など地元と設計の段階で協議願いたい。 ◎農地等の災害においては個人負担が多いので農業を続ける人がなくなってくる。例えば砂地に対応する作物などの方法など考えられないか。
一宮町上岸田	◎ 上岸田自治会としてもこの災害を記憶に留めておくために記録誌を作ろうと思っているので資料等について提供等ご支援いただきたい。 ◎ 復旧工事だけでは、河床も上がっているしまた災害が起こるのは目に見えている。どうしたらいいのか。 ◎ 砂防工事など要望書について出す時に支援いただきたい。◎ 災害により地域の絆が強くなり良くなった。
一宮町三方町	市への要望になるが、情報連絡体制の整備・家屋被害認定の自治会長への公表(今回、自治会内の見舞に参考にしたかった)・雨量計の増設・風倒木の処理・河床堆積土砂の撤去・災害発生から数日後の市の対応はたいへんよかったと感じている。
一宮町福中	災害復旧の全体像、時期等の説明がまったくされていない。地域は不安である。復興に向けてがんばりたいが説明がないので手付かずの状態のままである。原型復旧が基本であるが、原型復旧をすれば再び災害が起こることを肝に銘じてほしい。できれば50年先、100年先まで安全な復旧をしてほしい。

一宮町福知	福知溪谷の復旧(激甚災害の状況、地元負担金)について、長い目で見た復興を考えていくべきである。(ボランティア参加、工法も含めて)自治会が災害本部を立ち上げれば市の職員との調整を十分にしてほしい。本庁が市民局に相談せずに動いて担当が2重になるなど混乱した。
一宮町生栖	巨石の再利用、河川縦断、本線を考えるべきである。(用地についてはすでに地権者の同意を得ている。)
一宮町西深	災害復旧の全体像、時期等の説明がまったくできていない。地域は不安である。復興に向けてがんばりたいが説明がないので手付かずの状態のままである。
一宮町深河谷	原型復旧が基本であるが、原型復旧をすれば再び災害が起こることを肝に銘じてほしい。できれば50年先、100年先まで安全な復旧をしてほしい。
一宮町曲里	ライフラインは戻っている。個人生活も概ね復旧し、1件を残すところとなった。田畑の復旧に時間がかかると思う。二次災害防止のため早期に河川改修等に取り組む。
一宮町閭賀	現状復旧ではもとに戻らない(水路など荒れている)山林、林地が手つかず。谷川の二次災害の恐れがあり不安である。砂防ダムの堆積土砂、木材を撤去した。(3ヶ所。自費 約100万円)災害によるダム(池)の撤去を早期に、「大ヌケ」のとなりが危険。(谷川が氾濫し公民館へ行けない状況)お稲荷様の山腹を改修。公民館の場所は危険があると思う。避難場所としてもっと安全な場所、施設を願う。(要望)揖保川の環境の高さを上げる。西安積付近は特に低く、改修を要望。谷川が洗われ、約1m低くなり岩盤が出てきた。
一宮町杉田	個人宅は復旧できた。田畑(6丁8反)の復旧が難しい。山、林道の復旧についても金額提示など受けたが留ましい。引原川の杉田橋上流部に堆積した土砂撤去を早急に要望したい。自治会内の雨水等の排水が溝脇氏宅横の水路に集中するため、逆流し浸水被害がでる。砂防ダムも3ヶ所あるが堆積しきっている。今後の対策は。
波賀町小野	◎農会で被害調査を行い、8月16日に野鹿防護柵の補修をおこなった。◎林道の被害ヶ所について関係機関に陳情に行った◎野鹿防護柵については修理が完了したので補助金ももらった。◎自主防災組織としては機能しなかった。機能できる組織づくりを進めていきたい。
波賀町谷	◎川の堤防の復旧工事をしたい。◎田の土砂の撤去(災害工事) ◎水路の補修はかなりあるが各自で行う。 ◎川からの水路の取り口の土砂撤去を行う
山崎町杉ヶ瀬	災害後の、被災住宅への消毒など、市の対応も早く自治会も石灰を配布した。*副自治会長が在宅しておられるので、献身的に動いていただいた。
山崎町田井	下水道処理施設に土砂等の流入があった。緊急に土砂撤去しないと機能しないため、市に対応を求めたが、関係部局と調整中とのことであった。待てない状況の中で何を悠長なことを言っているのか。早急な対応をしてくれなかったため、自治会で業者を依頼した。土砂撤去処分については、河川にした。自治会から国交省へ報告した。自治会内の水路等、今後の降雨を考えると緊急な対応が必要のため、自治会で対応した。農地等は災害復旧工事をさせていただくことになっている。河川敷公園については、役所に要望している。市は、一宮の方がひどいという対応であった。本庁という立場はわかるが、山崎市民局があれば、もっと親身になって対応してくれたと思う。その辺が残念である。
山崎町岸田	自治会内の復興はほぼ完了していると思うが、揖保川で神河橋上流の堤防の浸食箇所の復旧及び下流の堆積土砂の撤去を早期実施してもらえよう、市と国交省に対し要望書を提出した
山崎町三津	緊急に対応しなければならぬ所を、自治会に呼びかけ10日に実施。30人~50人が出役。午前:床上浸水被災家屋の救援 午後:道路、水路等の復旧作業 今後、農道の被災箇所の復旧作業が残っている。(田の作業が始まるまでに実施) * 河川公園整備よりも、堤防改修をしてもらいたい。
山崎塩田	①今年度(22年)の水稲作付けは、塩田自治会では4月終わりごろであるが、作付けに支障のないよう復旧工事実施をお願いします。(いつごろに工事ができるのか?作付けは可能なのか?などの情報が市役所から全く連絡が無い。連絡が欲しい) ②豪雨により、甚大な被害を受け、その爪痕は未だ大きく残っている。一日も早い復旧が市民の願いです。市民はじめ関係機関・団体が丸となって災害復旧に取り組んでほしいと願います。 ③災害復旧工事地元負担金が大きな課題。工事ができないかもわからない。(堰等)山が崩れ、田に土砂が流入しているが、高齢者世帯の場合、負担金を払ってまで工事実施は無理なので、いずれは放棄田になることも考えられる。 ※直接災害とは関係ないが、以前から清瀬鉄工の上、塩田入り口の山側からの落石多発するため、通学路でもあり危険なため、落石防止工事を要望していた。以前、県事業で実施予定と聞いていたが、災害で流れたのか、早急な対応をお願いします。
千種町河内	* 既存の砂防えん堤は土砂で埋まっている状態で、「ウト谷」の砂防工事の着手を早急に願いたい。要望する。指導のあった関係書類は整理済である。 * 「河内中宮神社」北側の山で、降雨時に大量の出水がある。水路の整備を要望する。水路尻が整備されていない。 * 「平木 保氏宅の裏」から土砂が出ている。抜け山になりそうだ。* 「足谷口地域」もひどい状況だ。
千種町下河野	自主防災組織については、訓練が必要だが、人が集まる際には今回のようなことを想定しての訓練・意識付けが大切だ。避難所には発電機、投光器、毛布の備蓄が必要だ。水道と下水が整備されていて良かった。水道の仮配水も直ぐにできた。災害初期において、何をすれば良いのかなどの個々の意識付けは大切だ。河川堆積土砂の除去を願う。河川堤防が低い。鹿橋の補修を22年度に行う。ボランティアの皆さんに感謝する。8月20日の発表でも遅いとは思わなかったが、ゴミ処理対策は早くしてほしい。復興対策について、最低限のことは事前に取り決めてほしい。今回の災害を教訓にしてほしい。